

—追悼—

弔 詞

鈴木政岐先生は昭和62年12月27日午後7時46分享年85歳で永眠されました。日本の恒星天文学の育ての親として暖かく後進を見守って下さる一方で、天文学の学校教育及び一般教育に強い意欲を持って現役として活動していらっしゃいました。

先生は石川県の御出身で旧制第四高等学校から東京帝国大学理学部天文学科に進み、卒業と同時に大正15年(1926年)東京帝国大学助手兼東京天文台技手に就任、天頂儀による緯度観測を担当され、更に子午環の観測に従事されました。

その間一方では恒星天文学の研究に励まれ、昭和9年理学博士の学位を受けられました。次いで昭和10年には東京大学助教授として理学部天文学教室に移り、昭和21年東京大学教授に就任されました。先生は大学の卒業論文で当時欧米で華やかに始まった恒星天文学の研究を手懸けられてから一貫して恒星の運動と空間分布について研究を進められ、特に、運動星団、局部恒星系、銀河系に関して大きな業績を挙げておられます。

私事にわたりますが、私が大学に入った時、初めて天文学の手ほどきをして下さったのも先生でありました。周到に準備された先生の講義は極めて興味深く、私が銀河系について興味を持ったのも先生のお陰であると深く感謝しております。

昭和31年には、先生の人徳を慕って集まった後進が纏まり恒星天文学研究グループができ、毎月1~2回研究会を開いて討論し、やがて京都を中心としたグループもできて、昭和36年より毎年全国から集まって夏の勉強会を催すようになりました。先生を中心にしたこのような研究活動は日本の天文学界の他の分野にも刺激を与え、今日の全国的な天文学の協力研究の土壌をつくりだし、東京天文台の各観測所を内外から支える力を養って特に岡山天体物理観測所の共同利用及び木曾観測所の設立から共同利用に至る素地をお育てになったのであります。

また、先生は天文学の研究のみではなく、わが国の天文教育についても、大変大きな役割を果たしておられます。戦後の学校教育の策定において先生は文部省通信教育審議会委員、教育課程審議会委員、学術奨励審議会委員、大学設置審議会委員等を歴任されました。高校地学を教科として含む戦後の教育制度は、先生の御努力があって初めて成立したものであります。

昭和38年に停年退官されてからは、学校教育に一層



努力され、国学院大学教授に就任されると共に新潟大学、山梨大学、早稲田大学等で講義を担当されました。また、国土建設学院長、北海道測量専門学校長の責を負われて今日に至りました。一般天文学の普及および教育の面での御活躍も大きいものがあり、なかでも天文博物館五島プラネタリウムには設立当初から理事として参画され、昨年まで館長として貢献されました。

日本天文学会においては、昭和4年から昭和14年の間に3期6年編集理事として今日の学会活動のもとを築かれ、昭和19年から昭和47年の間に6期24年の永きにわたって評議員として貢献されました。その間に昭和26年より2年間副理事長、昭和30年より2年間理事長として日本天文学会を纏めてその発展に尽くしておられます。

常日頃先生は「己の力を知りて矩をこえず」との人生訓についてお話になり、また、人の和の大切なことをよく説かれました。日本の天文学界は今、大きな設備・装置を建設して共同利用し、周辺分野の研究者とも議論を重ねて、新しい研究課題にも挑もうとしております。専門家の研究活動は数多くの天文愛好者、学校教育者の熱心な日頃の努力の上に築かれております。先生の有形無形のお教えを体し、私ども一同日本天文学会の発展のために尚一層の精進をして参る所存であります。

先生とのお別れに際し、日本天文学会を代表し、ここに謹んで先生の御冥福をお祈り致します。

昭和63年1月29日

社団法人 日本天文学会理事長

高窪啓弥